

けやきの村 便り

発行●社会福祉法人けやきの村 〒960-0261 福島市飯坂町中野字高田前2-7 TEL024-542-3275 FAX024-542-6978
E-mail:keyakinomura@deluxe.ocn.ne.jp

社会福祉法人けやきの村 経営理念

あなたとともに

そして

あなたのために

けやきの村は「親亡き後も心穏やかに安心して生活できる場所をつくりたい」との障がいのある子を持つ家族の願いから設立されました。私たちは、このことを忘れてはならない一番の原点と考え、あなたとともに幸せを創造する存在でありたいと思っています。

あなたとは、子どもから高齢者、障がいのある方、社会的に弱い立場の方、その家族、地域の方を意味します。また、あなた自身を取り巻く社会、環境、背景すべてを含みます。私たちは、あなたのために同じ志を持ち、たくさんの人との出会いを通じて、心豊かにこの使命を全うします。

基本方針

- 一、あなたとともに創造し続けます
- 一、あなたのために全力を尽くし続けます
- 一、つながる社会を目指し続けます

行動指針

- 一、私たちはあなたを知る努力をします
- 一、私たちは自らを高める努力をします
- 一、私たちは気づいたら即行動します
- 一、私たちはあなたに寄り添い続けます

経営理念作成経緯

けやきの村 常務理事 佐藤武美

社会福祉法人けやきの村の新しい経営理念が、去る7月29日開催の理事会において、上程、そして、ご承認をいただき、この度職員の皆様にご公表されました。

それを受けて、法人の職員全員を対象に経営理念浸透のための勉強会を、10月から12月の土曜日を利用して計6回の開催により実施させていただきました。

私からは、三つのお話をさせていただきます。まず初めに、この度の法人の新しい経営理念の策定に至った経緯をお話いたします。昨年の12月に策定プロジェクトチームのメンバー11名が招集され、舟山理事長より、このようなお話がありました。

「法人の今後数十年か先を見据えたとき、この福祉の業界で生き残るには、けやきの村独自の理想、目標を明確に示すことが大事だと考えます。それが、50周年を迎える今です。」

ただでさえ、地域のつながりが希薄になっています。そんな社会の中で、お互いに支え合いながらやっていかなければなりません。今後間違いない、お互いが支え合って行かないと成り立たなくなりました。

そこで、法人の役割を明確にし、理念として掲げていくことが大切であります。この言葉を基にその後、8カ月の歳月をかけてできた理念が、今皆さんに示されているものであります。次に、法人の設立から現在までの歴史を簡単に

お話します。法人が創設されたのは昭和46年9月のことでありますが、当時、福島県職員として勤務していた初代のけやきの村の施設長の黒澤正様、福島県厚生部からの要請により、社会福祉法人の認可を受け施設が建設されたことから始まります。

去る8月5日に創立50周年記念誌発行に向けての座談会が開催されました。元理事の大内一也様、元けやきの村施設長の鈴木隆史様、元理事長で現在顧問の野地信一様、そして、現舟山理事長の4名様にお集まりいただき、法人の設立から施設が五つできるまでのこと、そして、これからの法人の展望等大変貴重なお話をお聞きすることができました。

大内一也様から頂いたお話の中で、法人の理念に繋がる部分がありましたのでご紹介させていただきます。

理念の主文の冒頭に、「親亡き後も心穏やかに安心して生活できる場所をつくりたい」という言葉が書かれております。これは、今から約55年前（昭和40年）頃のお話であります。東北地区股体不自由児親の会の方々が身体障害者収容施設設置を懇願され、募金活動や、昔の山中公園を借りてのバザーや七宝焼等の展示販売で資金を集め

たそうです。最初は一家族一箇月2000円の郵便貯金の積み立てからのスタートだったそうなんです。そうして積み立てられた資金と、障害を持つ子供を思う親の愛情から法人けやきの村が設立されました。その時代の苦しい生活の中で活動は、並大抵の苦労ではなかったと想像されます。そのようなご父兄様の熱い思いや、地域の皆様方のご理解とご支援、そして諸先輩方のご尽力により、現在の社会福祉法人けやきの村が存在しております。

最後に、法人の今後の取組みについて話します。私が採用された頃は、法人全体で職員は80名ほどはなかったと記憶しております。現在の給食業務は委託の形ですが、その時代は職員が業務を行ってましたので、そのことを考慮しますと入所施設三施設を60名で運営していたことになりそうです。その時代までは、利用者さんの支援だけを考えていけばよかったかもしれませんが、しかし、現在は障害福祉のほかに高齢福祉、介護保険事業に対して多職種の職員で、地域、そして、社会と深く関わっていかねばなりません。また、法人に課せられている公益的な取組も進めていかなければなりません。

今年度の事業計画により、福島市から借りているけやきの村の土地の取得と市営住宅の購入とリフォームが、現在進められております。しかし、この事業では六世帯分の生活の場を確保することしかできません。法人には今後多くの検討すべき課題があります。法人には今後多くの検討すべき課題があります。法人には今後多くの検討すべき課題があります。

・築40年の青松苑の改築や今後の施設の方向性の検討
・築38年の静心園の改築や今後の施設の方向性の検討
等が挙げられます。これらのことを法人の全職員（現在161名）で真剣に検討し、前に進めていかなければなりません。そのためには、職員一人ひとりが、高いアンテナと意識、きめ細やかな心遣いを持って、日々の業務に当たっていかねばいけないと考えております。そのため、今回の法人の新しい経営理念を活用していただきます。

私は「あなたとともに」として、三つの基本方針、四つの行動指針を胸に刻みながら、業務の責任とプライドを持って全うしていきます。職員の間でも仕事を愉んだり、迷ったりするところがあると思います。でもそんな時は、同じ志を持った職場の仲間と一緒に乗り越えて欲しいと思います。また、そんな時、法人の経営理念を読み返してほしいと思います。そのような形で経営理念を活用していただき、浸透に繋げていただければと考えております。

村ひろば

青松苑

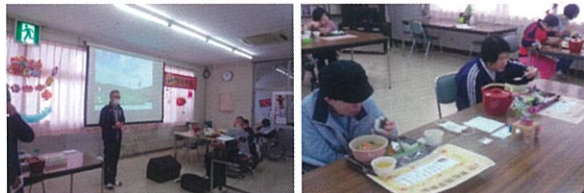
■納涼祭



今年の納涼祭は、コロナウイルス感染対策のため施設ごとの実施となりました。

屋外を使い「密」を考慮しながら、夏祭りの雰囲気を感じられる飾りを作り会場作りを行いました。夕食も、焼きそば、フランクフルト、焼き鳥などの夏祭りらしいメニューを楽しみました。『スイカ割り』や『手持ち花火』の初めての試みも大勢の方が参加して楽しんでいました。

■芋煮会



今回は前半、後半に分け、前半は苑長制作の動画を鑑賞しながら芋煮と弁当を食べ、後半はゲーム大会を開催、みなさん張り切って参加していました。コロナウイルスの影響で、時間や環境に限られた中ではありましたが、みなさんの笑顔が溢れる楽しいひと時になりました。

けやきの村

■納涼祭



毎年、地域の方々や利用者様のご家族、ボランティアの方々に参加していただいております納涼祭。今年は新型コロナウイルスの影響により縮小して実施しました。スイカ割りや手持ち花火、新しい試みでしたが楽しく実施できました。納涼祭の最後にはコロナウイルス収束を願い打上花火。とても綺麗でした。

■芋煮会



10月22日、けやきの村食堂にて芋煮会を実施しました。芋煮会では美味しい芋煮を食べながら、抽選会やスライドショーを見て楽しい時間を過ごしました。

桃の里

■運動会



コロナ禍の不測の事態の中でも楽しみを…

今年は何もなくつまらない⇒気持ちを高めるために健康・安全を考えながらミニ運動会を実施。上位者には表彰状も贈らせていただきました。

大正生まれの男性陣もタオルたたみ競争頑張ってくださいました!(^^)!

■秋の味覚



欲しいものはなあ〜にゲームでは出たサイコロの目の数だけ落ち葉の中から千本引き!!

職員制作の松茸・さつまいも・柿・栗・純金・草履・毒キノコ・骨?までも…何が取れたかな? ドキドキ・ワクワクしながら皆で楽しみました。

静心園

■芋煮会・お楽しみ会



10月14日、今年度はコロナウイルスの影響もあり、利用者の皆様を楽しめるよう芋煮会の他に、ビンゴ大会や職員による仮装行列などを行いました。皆様笑顔で楽しんでいただき、とても盛り上がりました。

■レクリエーションクラブ



10月21日、園内ホールにて「空気砲で遊ぼう」を行い、段ボールで作った空気砲でピンを倒して点数を競いました。上手くピンが倒れた時には、歓声が上がりと、とても盛り上がりました。

相談支援センター

✳️認知症サポーター養成講座を開催しました✳️

10月1日に大鳥中学校にて中学3年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症とはどのような病気なのか、どの様に対応したらよいのか、講話と寸劇（「ご飯はまだかい？」）を取り入れて行いました。受講した生徒達からは、「認知症の方は不安に思っているという事を知った」「登下校で認知症の方を見かけたら優しく声をかけてあげたい」などの感想がありました。今回、先生方も含め44名が認知症サポーターの一員となり、受講後にサポーターの証であるオレンジリングを贈呈しました。



「ご飯はまだかい？」の寸劇の様子

ユニットハウス・AI体温検知カメラ・リモート面会システム

福島県の新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用し下記を設置・導入いたしました。



○AI体温検知カメラ整備

感染対策として青松苑・静心園の玄関に、AI体温検知カメラを整備しました。



○ユニットハウス設置

衛生用品保管や新型コロナウイルス感染時に簡易型居室として使用できる多機能型ユニットハウスをけやきの村・青松苑・静心園・桃の里に整備しました。

○リモート面会システム導入

コロナ禍において、面会等制限をさせていただいているところですが、パソコンとタブレットの画面を通して面会できるシステムを導入しました。



障がい者及びその家族のための避難所モデル事業避難訓練



10月10日、昨年の台風19号上陸から一年になるのを前に、福島市とともに障がい者を対象にした避難訓練を実施しました。一次避難所の利用が難しい障がい者向けに、通い慣れた施設での受け入れ手順を確認しました。





陸上自衛隊福島駐屯地曹友会による除草作業奉仕

9月26日、陸上自衛隊福島駐屯地曹友会の方々が、社会福祉法人けやきの村の施設周辺の除草作業を行いました。毎年、奉仕作業を実施していただいております。法人内の堤防沿いの草刈り、枝の除去作業等を行いとてもきれいにさせていただきました。誠にありがとうございました。



コボックス株式会社様より寄付金

10月13日、コボックス株式会社様より社会福祉法人けやきの村に寄付金をいただきました。いただきました寄付は、利用者様の生活の質の向上のため、有意義に使わせていただきます。誠にありがとうございました。



東北労働金庫福島県本部様より寄付金

9月9日、東北労働金庫福島県本部様より、障がい者の就労を支援するため、障害者支援施設けやきの村の就労移行支援事業所へ寄付金をいただきました。いただきました寄付は、一般就労を目指す利用者様のために使用させていただきます。誠にありがとうございました。

青松苑 送迎車購入

現在使用中の送迎車の経年劣化に伴い、送迎車を購入しました。車イスを2台乗せることができます。今後は利用者の送迎のほかにも外出行事などの様々な場面で活躍してくれるでしょう。



福島市社会福祉協議会飯坂協議会 中野地区会様より梨の寄贈

9月29日、福島市社会福祉協議会飯坂協議会中野地区会様より梨6箱（品種：二十世紀）を寄贈いただきました。寄贈いただきました梨は、法人内各施設の利用者様に提供させていただき、大変美味しいとの声をいただきました。誠にありがとうございました。



2020年度公益財団法人JKA機械振興補助事業「特殊浴槽更新事業」実施

公益財団法人JKA様より補助金を交付していただき、特殊浴槽更新事業を完了しました。利用者の皆様からも「気持ちよく入浴できる」と好評をいただいております。

公益財団法人JKA様には、社会福祉法人けやきの村の運営につきましてご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



総事業費 8,470,000円
補助金 6,270,000円



体育館EHPエアコン設置

令和2年度福島県事業者向け省エネ対策推進事業補助金を交付していただき、体育館にEHPエアコンを設置しました。現在まで使用しておりましたGHP空調機より高効率なEHP空調機に更新することにより、省エネに期待できます。今後も法人全体にて省エネに取り組んでいきたいと思っております。

総事業費 1,353,000円
補助金 615,000円

2020年もあともう少し…。今年は新型コロナウイルスの影響により自粛…自粛…の生活で心労が絶えない一年でした。ご利用者様、ご家族様には外泊・外出・面会・イベント等の制限や自粛で大変ご迷惑をお掛けしております。寒さも厳しい時季となってきました。体調管理に充分気を付けて新しい一年を笑顔で迎えましょう。

編集後記